

ガラスの可能性を追求

本県ガラス業界の老舗(株)竹原屋本店。江戸時代の紅花商人から板ガラス問屋となり旧県庁前に構えた店のショールームには瀟洒(しょうしゃ)しやなクリスタルガラスが並び市民の目を惹きつけた。事業は発展し「窓から地球の未来を創造！」をキャッチフレーズに、エコガラスや安全安心な窓ガラスの普及・設置工事に取り組んでいる。五十嵐勇次会長と五十嵐慶三社長に同社の歴史、方針をうかがった。

先祖は最上家家臣 改易後、紅花商人に

―五十嵐家の歴史は江戸時代初期の最上家治世時代に遡るとお聞きします。

五十嵐慶三社長 先祖は最上家の家臣で、最上家改易後竹原下條(現・山形市下條町)に住んでおりました。今から400年近く前のこととなります。天保年間(1830〜44)に地名をとって「竹原屋」の屋号で紅花問屋を興しています。河北町の郷土史家今田信一氏の著書『最上紅花史の研究』の在方の紅花商人群の項に「1856(安政3年)8月、京都・大阪に紅花を発送する船荷為替主竹原屋祐太郎」の名が記録

されています。

紅花取引は明治に入って海外から安い化学染料が入って来たことから衰退します。竹原屋もまた、初代形県令三島通庸によって県庁が建てられた明治10年に、竹原下條から県庁向かいの七日町に移り、紅花に代わって古物や刀剣などを扱い始めます。蔵の中にギヤマン(カット・ガラス)で作られたランプが骨董類と一緒にありましたから、ガラス品も商品のひとつであったと思われま。明治38年に板ガラス問屋となり、今日に至っております

五十嵐勇次会長 明治44年5月8日の山形市



竹原屋本店のマークの入った特注ガラス(本社ロビーに展示)



明治44年5月の山形市北大火が記録されている「萬代帳(よろずだいちょう)」や出納帳



工藤菊太郎会頭に寄付金(小切手)を手渡す五十嵐勇次会長(平成5年9月16日)

(株)竹原屋本店

創業 明治10年4月8日
 会社設立 昭和28年2月28日
 代表取締役会長 五十嵐勇次氏
 代表取締役社長 五十嵐慶三氏
 所在地 山形市立谷川2・851・4
 ☎023・685・2356

北大火で店舗兼家屋が焼失してしまいました。昭和4年に生まれて長い間家業に携わっていましたが、この間いろいろなことがありました。戦時中の統制時代は板ガラスが非常に貴重なもので、小さく間仕切られた窓に寸分たがわずガラスを切ってはめる職人の手際の良い仕事ぶりに、人々が感心した様子で取り囲んで見ていたことを思い出します。

昭和42年に店を建て替えたときにガラスや海外から輸入したクリスタルガラス、工芸品を集めたショールームを設けました。板ガラスと実用品、工芸品を一緒に扱うのは全国でも珍しく、

「ガラスの専門店」として数多くの方に愛顧いただきました

会議所会館建設資金に1千万円を寄付

―平成5年に亡くなった奥様が会館建設資金として1千万円を寄付しています。

五十嵐勇次会長 ショールームを担当していたのが専務であった妻の美江子です。産業会館や県民会館で展示会を開く一方、商工会議所婦人部(現・女性会)の理事として会議所活動に携わっていました。本県の女性ドライバー第一号として新聞の話題になるなど元氣な女性でした

たが病には勝てず、亡くなる前に「お世話になった会議所に何か形になるものを遺したい」と口にしました。親しくさせていただいた清野源太郎さんをはじめ歴代の会頭、役員の方々や新会館建設に奔走していただきましたので、妻の遺志として1千万円を寄付させていただいた次第です。平成21年3月に新会館が竣工したときは家族一同感無量で、「妻に見せてやりたかったなあ」と心底思ったものです。

専門職を育て健康で快適な生活を提供

―安全・防災そして省エネの実現を経営方針

の柱として掲げています。

五十嵐慶三社長 安全・防災の面で申し上げます、新潟中越地震と東日本大震災でのボランティア活動で、あらためて私たち専門業者の果たす役割を認識しました。

体育館などに避難して来た被災者の多くの方が、地震で割れ落ちた家の窓ガラスで手足や顔に切り傷を負っていました。こうした現状を変えるべく弊社は、旭硝子板ガラスカンパニー日本事業部のガラスパワーキャンペーンに賛同し、災害時の避難所にもなっている小学校体育館の窓に、破損しても飛び散らない「合わせガラス」寄贈のボランティア活動を行っております。その全国第1号は山形市の地域指定避難所となっている鈴川小学校です。小学校の体育館に「合わせガラス」を取り付けることは、地域や子どもたちの安全を守ることとなり、山形市より感謝をいただきました。

もう1つの柱は地球温暖化防止のためのエコガラス「さくらんぼ」の普及です。日射熱をカットするため夏は少ない電力で冷房負荷を軽減し、冬は特殊金属膜が室内の熱を外部に逃がしません。私たち旭硝子の特約店で構成する「チームやまがた」のボランティア活動や省エネへの取り組みが評価されて、この高性能エコガラスは特別に「さくらんぼガラス」と命名されました。

2020年に向けた弊社の経営理念で「商品力」「提案力」「貢献力」をテーマとしておりま。クオリティの高い優れたガラスの潜在能力を進化させ、生活環境の改善を地球規模で本気になって考え、未来貢献型のサポート集団を目指します。



本社ロビーには「板硝子問屋」や「旭硝子」特約店を記した看板や暖簾が大事に保存されている。手前左から五十嵐勇次会長、五十嵐慶三社長。後ろは五十嵐祐子常務と長女の博子さん